

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	1824414
施設名（園名等）	八王山学園 あすなろ幼稚園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

プラネタリウムを作っちゃおう

<テーマ設定理由>

例年、年長の活動として地元の「葛飾郷土と天文の博物館」にてプラネタリウムを鑑賞しており、その後のクラス協同での活動に繋げていく文化がある。現年長児も入園以来、この活動に憧れを持ち、創造意欲も高まっていたため、この活動ならば、子どもたちの主体性をもって様々な学びが得られると予想できたため

## 2. 活動スケジュール

- ①【テーマを決める】5月30日に年長児全員で葛飾郷土の森プラネタリウムに鑑賞に行く。帰園後クラスで話し合い、どうしたら自分たちのクラスルームをプラネタリウムに変身できるかディスカッションを重ね、宇宙について調べながら実際に共同制作に臨む。完成後は他学年の子どもたちや保護者を招待してお客様に体験してもらう
- ②【問いを考える】「プラネタリウムって暗くするにはどうしたらいいと思う?」「宇宙つくるには何が必要?」「星座と惑星ってどう違うの?」などプラネタリウムを製作する方向と宇宙を知る方向の2方向で問いを設定する。
- ③【環境をデザインする】場所：年長各クラスルーム、備品：糊・両面テープ・ガムテープ・透明テープ・ボンドなど、教材：絵具・絵本・DVD・図鑑など、素材：色画用紙・折り紙・段ボール・白ボール紙・風船・LEDライト・ビニール・カラービニールなど、道具：段ボールカッター・ハサミ・筆・マジック・クレパス・サインペンなど、以上でプラネタリウム空間を出現させる
- ④【探究活動を実践し、記録する】星座を調べて実際の星座を模したものを光るように作ってみたり、オリジナルの星座を生み出してみたりする。惑星も実際の惑星だけでなく想像上の惑星作りにも挑戦する。また宇宙での生活にも想いを馳せ、宇宙食を調べ自分たちで宇宙食を作ってみる。探究活動の様子は動画や静止画で記録する。
- ⑤【振り返る・共有する】年長2クラス同時進行で活動を進めていくため、その前後で活動内容の振り返りを行う。振り返りの結果は園HPやインスタ、クラスだより等で保護者にも共有する。保護者には10月14日の芋ほり遠足の送り迎え時、他学年には10月23・24・27日に全学年を招待して自分たちの作ったプラネタリウムを体験してもらった。

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

#### ☆活動のために準備した素材や道具、環境の設定

場所：年長各クラスルーム

備品：糊・両面テープ・ガムテープ・透明テープ・ボンドなど、教材：絵具・絵本・DVD・図鑑など、  
素材：色画用紙・折り紙・段ボール・白ボール紙・風船・LED ライト・ビニール・カラービニールなど、  
道具：段ボールカッター・ハサミ・筆・マジック・クレパス・サインペンなど

#### ☆活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり

・惑星をマールディングで作ると偶然に出来た模様に「虹色の惑星になってる！」「惑星にもっと色々な色を入れてみたい」と感動する姿があった

・宇宙ステーションで実際に生活するところを考えると「トイレの紙は宇宙でどうなるの？」「水が無くなったら宇宙はどうするの？」など様々な疑問が出てきた。そうした疑問を絵本や図鑑で調べて、自分の尿が飲める水になることを知り、みんな驚愕していた。

・プラネタリウム完成後に様々な学年・クラスの子どもたちを自分たちが作ったプラネタリウムに招待しよう、という展開になったとき、「小さい子達にどう体験してもらうか」クラスで話し合うと「それなら案内係とか説明係が必要！」となど自分たちのなかから役割を分担する発想が生まれていた。そこから模擬体験などを通し試行錯誤を重ね、上手くいかない体験も糧にしながら本番は「宇宙ステーションへようこそ！」と自信をもって積極的に小さい子達に関り、自分たちのプラネタリウムを紹介していた。

・保護者の方に保育ボランティアを募り、土台づくりに協力して頂いたり、完成したプラネタリウムを芋ほり遠足送迎の際に子ども本人の案内の元で体験して頂いたことで、保護者から「家で子どもの話を聞いても全く分からなかったが、実際に体験することで幼稚園でどんな活動をしているのか、リアルに分かった」「ほんの少し手伝っただけなのに壮大なプラネタリウム活動が自分事になって子どもをもっと応援する気持ちが膨らんだ」といったご感想を頂けた。

※写真は別紙 4 枚

### 4. 振り返り

#### <振り返りによって得た先生の気づき>

惑星をマールディングで表現したり、和紙と風船を使って張り子の仕組みで立体の惑星をグループごとに協力して作ったりする活動を通し、子ども達同士で様々なアイデアを出し合う面白さ、それが具現化されていく喜び、自分のアイデアが友達のアイデアでさらに発展していく楽しさを体験することが出来た。

また、宇宙での生活を身近に感じ、トイレはどうしたら良いか、食事はどうするかなど、疑問や興味を持ったことを自分たちで調べて、そこで得た知識により発想が広がって、さらに活動に活かし楽しさを十分に味わうことが出来た。この経験がさらに主体的な園生活へと活かされていくことを感じ、本活動の意義を大きく感じた。

プラネタリウムを実現するにあたり、子どもたちが実際に鑑賞したプラネタリウムのドーム下方に投影された街に注目し、そこを再現しようとする活動の中で自分たちの街に興味を持って「スカイツリーを作ろう」「東京タワーも作ろう！どっちが高いの？」と発想を膨らませていったことに非常に意外性を感じた。「プラネタリウム = 宇宙」という型にはまったパターンに縛られない、子どもならではの発想で活動が動いていったことに、この活動の大きな意義を感じた。













